キャリア教育の視点をふまえた自立活動の授業づくり
－PATHの活用の試みとブラインドウォーク－

Takashi WATANABE
渡 邉　崇 *

Ⅰ．はじめに

自立活動の授業づくりを巡る諸課題は，中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会特別支援教育部会（2016）の第5回の「自立活動の改善・充実の方向性（検討素案）」に取り上げられている。課題の一つに，「現在の実態だけにとらわれてしまい，将来を考えて指導を組み立てる視点の弱さ」が指摘されている。また，その具体的な改善・充実の方向性の一つに「指導目標・具体的な指導内容の設定等の示し方の改善」が掲げられている。宮尾・一木・古川（2016）は，自立活動の指導の分析をとおして「年限のある学校教育において，ボトムアップとトップダウンの双方の視点から現在の指導の根拠を説明できる実践」を追究し，「個別性への対応を前提としながらも，生活年齢における指導の共通性をこれまでの実践の分析を通して検討していくことが重要」であると述べている。

一方，キャリア教育の分野では，「本人の願い」から出発し，現在からそこに至るまでの過程を整理したPATH（Planning Alternative Tomorrow with Hopes）が開発されている（大崎，2011）。PATHは，1991年にカナダにおいてForestらによって開発されたものであり，涌井（2009）によれば，その特徴として，障害のある本人を交え，子どもの指導に関わる人が集まって情報を共有し，「障害のある人の夢や希望に基づきゴールを設定し，そのゴール達成の作戦を立て」るものである。このように，PATHは，主体である「本人の願い」を聞き取り，内面の成長，キャリア発達を促すツールとしてキャリア教育を促進するために使用されることがある。前述した「将来を考えて指導を組み立てる視点の弱さ」を克服するために，トップダウンとボトムアップの両者の視点で作成されるこのツールを自立活動の授業づくりに活用することで，「指導目標・具体的な指導内容の設定等の示し方の改善」につながるのではないかと筆者は考えた。

本校中学部では，週１回，水曜日の４校時（11:25～12:15）に自立活動の時間における指導を実施しており，人間関係形成グループ，言語・コミュニケーショングループ，心理・コミュニケーショングループ，環境グループの４つのグループを学部縦割りで編成している。筆者が担当する人間関係形成グループでは，「話し合い活動を中心にして，コミュニケーションの力や人間関係形成の力を高める」ことがねらいである。

本研究では，このねらいを達成するための一つのツールとして，中学部の男子生徒１名を対象に，PATHを作成し，それを基にした自立活動の授業実践を試みることを通して，将来的な視点をふまえたツールの活用と授業づくりの関係について検討することを目的とする。

*　茨城県立北茨城特別支援学校

Ⅱ．方法

1．対象

生徒Aは，中学部第3学年の男子生徒である。言葉でのやりとりができるが，自分の考えを伝えるまでに時間がかかり，困った様子を示すことで他者に気付いてもらい助けてくれるのを待つ傾向が強い生徒である。また，眼鏡をかけており，視力検査で0.3である。食事とトイレでの排泄は自立している。衣服の着脱については，ほぼ自立しているが，Yシャツの第１ボタンを締めることが難しいため，第１ボタンの代わりにマジックテープを取り付けたYシャツを着用している。スクールバス停まで一人で歩いて，登下校している生徒である。窯業の作業学習のお皿作りでは，たたら粘土を型に合わせて切り，型に乗せてタンポで叩くという工程を理解して取り組むことができるが，道具を使って形を整えるなどの手先の細かい動作が苦手である。

なお，本稿執筆において本人及び保護者には研究の趣旨を説明し，了解を得ている。

2．アセスメント

佐藤（2014）の巻末にある「コミュニケーション発達段階表」の一部を改変して，平成28年6月・12月にアセスメントを実施した。自立活動の人間関係形成グループを担当する教師4名が協議し，実施した（巻末資料1）。

3．PATHについて

PATHは，本来，本人や保護者，関係機関が一同に介して話し合って作成するものであるが，保護者や関係機関のスタッフの同席が難しかったため，今回は担任である筆者が本人の意見を聞き取り，作成することとした。また，作成したPATHは，平成28年10月の個別面談時に保護者に内容について確認した。

作成の手続きについては，次の通りである。

①担任が生徒Aから「1．幸せの一番星」の意見を聞き取る。「1．幸せの一番星」は，将来やってみたい「本人の願い」を記入する。

②その意見をふまえて，自立活動の人間関係形成グループを担当する教師4名で話し合ってPATHを作成（図1参照）する。

③再度，担任が生徒Aから意見の聞き取りを行う。

4．授業づくり

PATHを作成した結果，本人が将来やってみたいこととして「車を運転したい」ことが挙げられた。そのために必要なこととして，生徒Aは，道に迷ったときに知らない人にたずねる力が身に付いていないといけないということを自覚しており，生徒A自身もその力を身に付けたいと考えていた。

自立活動の人間関係形成グループは，「話し合い活動を中心にして，コミュニケーションの力や人間関係形成の力を高める」ことを目標としているグループである。筆者は，自分で考えて伝えることができるようになってほしいと願っており，生徒A自身も道に迷った時に知らない人にたずねる力をつけたいと考えていたため，授業の中では自分から考えを伝えることができるよう

に以下の２点について配慮した。

①生徒10名を3名，3名，4名の3つの小グループに分けて活動に取り組むことである。少人数にすることで，安心して自分の考えを伝えられるようにすること，また人数が少ないことによって自分の考えを発表する場面を増やすことができると筆者は考えて設定した。②体験活動を取り入れ，感じたことや考えたことを意見として発表できるようにしたことである。見る，聞く，触るなどの体験によって，感覚が刺激され思考を促し，自分の考えを伝えやすくなるのではないかと筆者は考えて設定した。

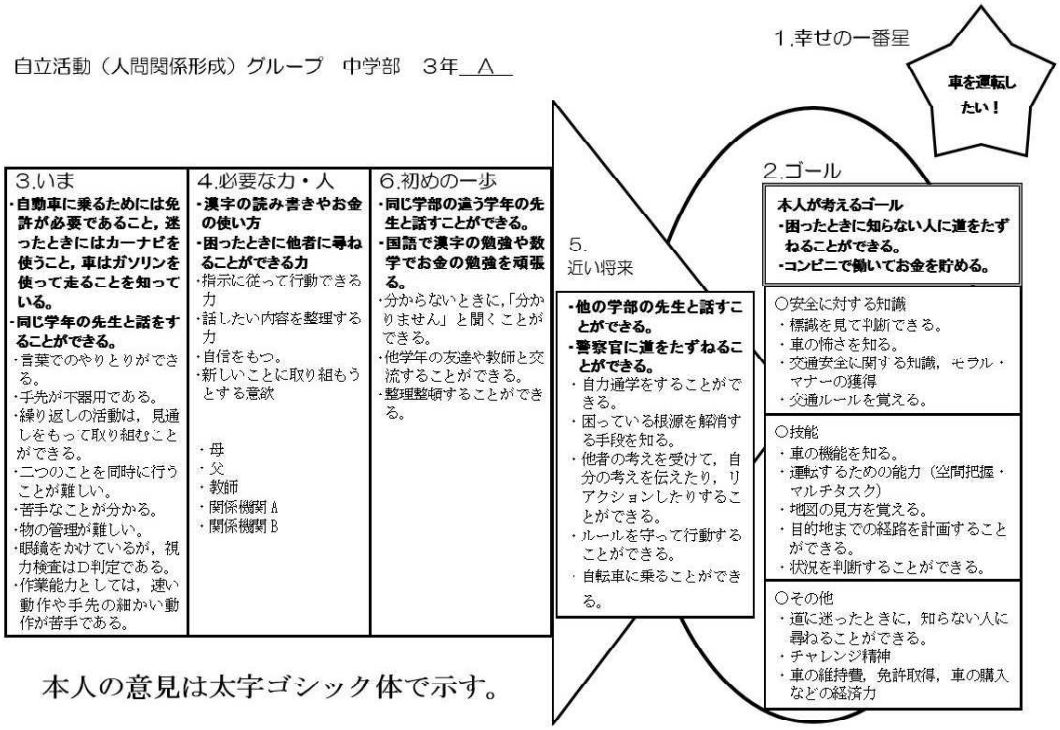

図1　生徒AのPATH

5. 指導期間

平成28年11月～12月までの週1回水曜日の4校時（11:25～12:15）に実施した。水曜日に実施ができない場合は，授業日を変更し，週1回実施できるようにした。

Ⅲ. 結果

1. 授業について

(1) 授業の概要

平成28年11月～12月実施「見えない世界を体験しよう」（総時間数８時間）は，ブラインドウォークの体験活動とその体験に関連する話し合い活動をする構成となっている。ブラインドウォークは，目が見えない人のそばに誘導する支援者がいて，歩くことを支援する活動である。本実践においては，目隠しする人，誘導する人，観察する人の３つの役割を設定した。生徒たちにと

っての目的を作るために，目隠しした人を誘導して，指定された場所に置いてある物を教室まで持ち帰る活動として，ブラインドウォークの活動を設定した。始めに，指定された場所を確認し，グループ内で役割を分担してから活動する。ブラインドウォーク後は，テーマに基づいてグループで話し合いを行い，それぞれのグループで話し合った結果を発表し，全体で共有し次の活動に生かす展開として構成した。

ブラインドウォークの授業に入る前に，見えないことによる不安を体験するために，目隠しをしながら手で触って箱の中身を当てるクイズゲームを行ったり，白杖を使って一人で歩く学習活動をしたり，教師がロールプレイで目隠ししている人を演じてどのように誘導すれば良いかを話し合ったりする学習活動を行ってきた。

(2) 支援及び生徒の様子

事前に[目隠し・誘導・観察]のポイントをまとめたワークシートを配付し，適宜確認できるようにした（図2参照)。ブラインドウォークで，全生徒に対する支援として，往路と復路で役割を交代する設定で取り組み，２つの役割を体験できるようにした（図3参照)。観察では，選択式のワークシートを用意し，丸を付けてチェックできるようにした（図4参照)。

ブラインドウォークでグループごとに指定する場所は，スタート地点である[中3-1]（図5参照）と同じフロアにある星の地点（A～D）から始め，歩行の誘導が慣れてきた段階から階段を使って下の階にあるハートの地点（E～G）に変更した（同じく図5参照)。

話し合い場面では，①支援なし，②状況説明（「今話しているのは○○だよ」)，③気付きを促す発問「□□くんはどう思う？」，④ヒントあり発問「△△くんは○○，●●くんは■■」，⑤２つの選択肢の提示，の5段階で支援にあたり，より少ない支援に移行できることを目指して取り組んできた。

授業の概要，生徒の様子，授業後に担当者で話し合った改善点をまとめたものを表１に示す。

実際の授業の指導案については，巻末資料2を参照。

ブラインドウォークの役割（ポイント）

目隠しする人	誘導する人	観察する人
○かた・ひじをつかむ。 （しっかりつかんで歩く） **○話をしっかり聞く** （誘導する人の指示を聞いてから動く） **○質問する** （分からないこと，不安なことはすぐに聞く）	**○歩くスピードを合わせる。** （はやすぎない，おそすぎない） **○相手の様子を見る** （不安がっていないか，指示が伝わっているか） **○距離を伝える** （あと少し，あと○段で終わりなど） **○方向を伝える** （右，左，前，後ろなど） **○聞き取りやすい話し方で話す** （声の大きさ，話すスピード，話すタイミング）	**○声を出さない** （誘導する人の声かけのジャマをしない） **○誘導する人の声かけが適切かを観察する。** （目が不自由な人が，不安がっていないか）

図2　ブラインドウォークのポイント

月　　日　　曜日　名前

○自分の役割は？○をつけよう！

前半	目隠しする人　誘導する人　観察する人
後半	目隠しする人　誘導する人　観察する人

○階段のときの誘導についてどうすればいいかな？みんなで考えよう！

どうすればいい？

○他のグループの意見をまとめよう！

	（　）グループ	（　）グループ
どうすればいい？		

○話し合いを振り返ろう！　あてはまるものに○をつけよう！

1　自分が目隠ししたとき　どう感じたかを　答えられた。
自分からできた　先生と話してできた　先生のどっちがいい？でできた
「どう感じ？」　「○○と□□」

2　話し合い　で　自分の意見　を　発表する。
自分からできた　先生と話してできた　先生のどっちがいい？でできた
「どう感じ？」　「○○と□□」

3　話し合い　で　自分の意見　の　理由　を　発表する。
自分からできた　先生と話してできた　先生のどっちがいい？でできた
「どう感じ？」　「○○と□□」

4　友達　の　話　を　聞く。
できた　先生に言われてできた　できなかった

○感想

図3　ワークシート

平成　　年　　月　　日

観察する人（　　）

しつもん	○をつけよう
目隠しの人の様子は？	不安そう　　安心している
誘導の仕方は？	肩に手をおいている　腕をつかんでいる
声のかけかたは？	左や右と方向を伝える　「あっち」「こっち」
歩くスピードは？	はやい　ふつう　ゆっくり
声のかけるひんど	①たくさん声をかける　②方向がかわるときのみ ③だまったままがおおい
障害物があったときは？	①障害物と移動の方向を伝える 「○○があるから右にいきます」 ②移動の方向を伝える　「右にいきます」 ③だまって誘導する
階段のときは？ あてはまるものに○ たくさん○がついても OK	①「あと○だんです」②手すりをつかむようにする ③「のぼります，おります」④どれもなし
気付いたことは？	

図4　観察者ワークシート(12月7日から「階段のときは？」の項目を追加)

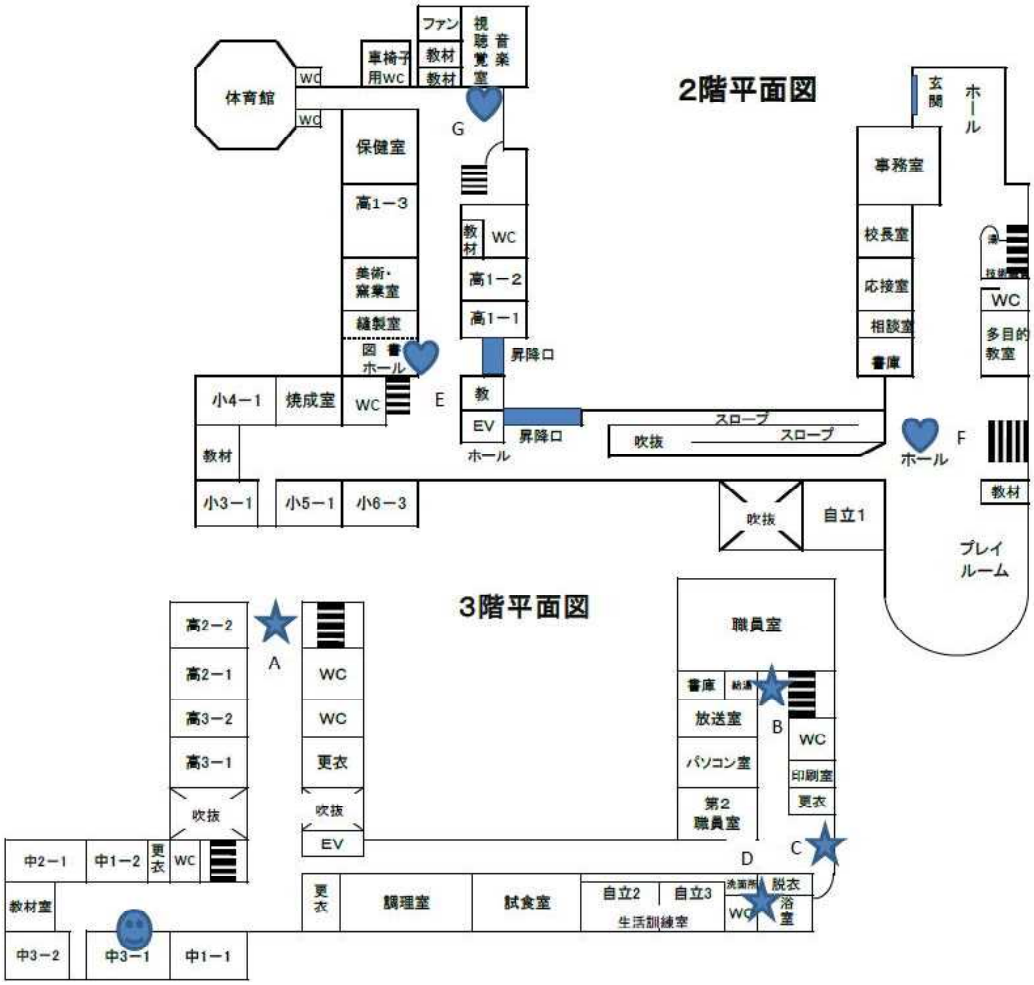

図5　ブラインドウォーク時のルート

表1　生徒Aの様子

日付	概要	生徒Aの様子	授業の改善点
11/ 9 水 4校時	「平坦な場所でのブラインドウォーク」 場所：職員室前（星B） 誘導で困った点について話し合う。	往路：観察，復路：誘導 誘導時に緊張してゆっくり歩いていた。誘導の経路に椅子を置いてある状況で，方向を伝えて誘導したが，目隠しの人がぶつかってしまった。話し合いの場面でそのことを困った点として発表することができた。	・生徒の意欲を高めるために，「アニメキャラクターAからの指令」の設定で，導入の工夫を行う。 ・話し合いで困った点を出して話し合うことが難しいことから，教師が予想される困難をブラインドウォークの活動の中で設定し，話し合いのテーマとする。
11/16 水 4校時	「平坦な場所でのブラインドウォーク」 場所：職員室つきあたりの廊下（星C） 誘導のときに，目の前に物があった場合の対応について話し合う。	往路：目隠し，復路：誘導 往路で目隠しのため，眼鏡を教室においていってしまった。振り返りの場面で，自分でメモをとることができた。誘導の指示に従って行動できた。話し合い場面では，教師が指名することで，「怖かった。」「右です。左です。」など意見を発表することができた。	・導入の工夫を継続し，アニメキャラクターをBに変更することで，学習に対して意欲をさらに高めることができるようにする。
11/21 月 4校時	「平坦な場所でのブラインドウォーク」 場所：浴室（星D） 指定された場所まで誘導されたが，そこにあるものを目隠しの人が触れないときの対応について話し合う。	往路：目隠し，復路：観察 目隠しでは，靴を脱いで１０ｃｍ程度の高さをまたぐ場面があり，「怖かった。」と振り返っていた。話し合い場面では，目隠しの立場から分からなかったことを伝えることができた。	・導入の工夫について，本校マスコットキャラクターに変更し，意欲を高める。 ・平坦な場所に慣れてきたため，階段を使った場所を設定し，葛藤場面を設定する。
12/ 1 木 3校時	「段差のある場所でのブラインドウォーク」 場所：プレイルーム （ハートF） 段差の場面の誘導の仕方について話し合う。	往路：観察，復路：誘導 初めての段差の誘導で戸惑い，不安な様子が見られた。また，階段で他のグループと遭遇してしまったことや，県指導主事が参観していたことがあり，本人にとって負荷がかかっていた。話し合い活動では，教師の言葉かけを受けて，階段の誘導が難しかったことを伝えることができた。	・話し合い活動の中にもアイマスクを使用し，体験や実演をしながら話し合うことができるようにするとよい。 ・段差の誘導については，ブラインドウォーク前に，前回の振り返りとして提案されたやり方を確認する。 ・段差に関する観察のポイントを観察者用のワークシートに反映させる。
12/ 7 水 4校時	「段差のある場所でのブラインドウォーク」 場所：図書ホール（ハートE） 誘導のスピードについて話し合う。	前半：目隠し，後半：観察 目隠しのときには,階段が怖かったため，降りる前にアイマスクをずらして階段の段差を確認していた。確認後は，アイマスクを着用し，誘導係の指示に従って階段を降りていた。話し合いでは，テーマに対して自分の意見として，「ゆっくりがいい」と発表し，その理由として，「遅い方が歩きやすい」と目隠しの立場で伝えることができた。	・観察の役割ができるように用意したチェック用紙は，観点が示されているため，分かりやすかった。チェック用紙のみでは不十分な生徒に対しては，言葉かけの支援があることで，注目すべき観点が分かった。 ・話し合い活動のときに，ブラインドウォーク時の様子を映像で振り返る。

2. 考察

本実践は，小グループに分かれて，体験し，話し合うという展開で授業を進めてきた。話し合い活動で，意見を発表するための手段として，小グループの活動設定や体験活動を取り入れたことは，有効であった。

自立活動の人間関係形成グループの教師で話し合って，授業を振り返り，改善に取り組んできた。11月16日（水）から授業の導入を変更し，第三者（アニメキャラクターA，アニメキャラクターB，本校のマスコットキャラ）が指令を出す設定にしたことで，生徒の意欲を高めることができた。

12月1日（木）の授業で，生徒Aは初めての階段の誘導役となった。危険な時は，教師が支援する予定であった。階段での誘導は，復路であったために，往路の生徒が誘導する様子を見ていたことから，適度な葛藤場面になると考えていた。しかし，他のグループも同様に階段で止まっていたことで，生徒Aは状況が整理できずにいたため，階段の誘導については事前に補足して説明する必要があったことが反省であった。

話し合いのテーマを「階段の誘導の仕方」に設定し，出てきた意見を次の話し合いに生かすことを想定していた。階段で困った場面では，教師に助けを求めることができなかったが，話し合い活動のときには，「階段で困った。」「棒（手すり）が難しかった。」など体験を振り返って自分の意見を発表することができた。

12月1日（木）の階段の誘導について，本人にとってはどうすればよいか迷う葛藤場面で，教師の少ない支援で，意見を発表することができた。改善に向けての自分の意見を発表することに関しては難しさが見られたが，時間を十分に確保して丁寧に質問したり，聞き取ったりするなどの指導によって，生徒A自身で整理し，発表ができるようになってきた。

Ⅳ．まとめ

1. PATHの活用について

将来的な視点をふまえて授業づくりを進めるためのツールとして，PATHを使用した。PATHの作成にあたっては，本人や保護者，関係機関が一同に介して話し合って作成するものであるが，保護者や関係機関のスタッフの同席が難しかったため，教師が生徒Aに聞き取る手続きで作成した。生徒Aは「車を運転したい」という「本人の願い」があり，そのために，コミュニケーションの力を高めたいと考えていた。PATHの活用により，生徒Aは「本人の願い」を目指して，自分が頑張りたいことを整理することができた。一方，教師にとっては，トップダウンとボトムアップの両方の視点から生徒Aにとって必要な力は何かを考え，意図的に授業の中にその要素を取り入れて授業づくりを進めることができた。

また，本人の意思決定を尊重して，それを授業に取り入れていく方法が必要であると筆者は考える。その方法の一つとしてPATHを作成し，将来的な視点をふまえた授業づくりをすることは有効であると考えられる。

2. 授業について

本研究では，PATHの作成をふまえて，言葉のやりとりはできるが，自分の意見を伝えることが

難しい生徒に対して話し合い場面で発表できることを目標に取り組んできた。話し合い活動は，生徒たちにとって心理的な負荷のかかる活動であるため，小グループ化によって話し合う人数を少なくしたり，体験活動と合わせて実施したりしたことは有効であった。話し合いの授業で大切なことは，生徒の意見を引き出すための支援方法をたくさん用意し，状況に応じて判断しながら，支援にあたっていくことであると分かった。

本研究の成果として，事前と事後に実施したコミュニケーション発達段階表の項目の中で，「△芽生え」から「◎達成」に変わった項目が1個，「空白」の未達成から「△芽生え」に変わった項目が4個に増えたことが挙げられる（巻末資料1参照）。授業の様子からも話し合い場面で，自分からは難しいが，より少ない支援で自分の意見を発表することができるようになってきた。つまり，コミュニケーション発達段階表は，アセスメントのツールであり，生徒の変化を把握するためのツールでもあることが確認できた。

今後の課題として，授業の生徒自身による振り返りが不十分な結果になってしまったことが挙げられる。中央教育審議会（2016）では，自立活動の評価について「子供たち自らが，自立活動を通して，学習上又は生活上の困難をどのように改善・克服できたか自己評価する方法を工夫することなども重要」としている。振り返りの時間を確保するために，活動内容を精選し，生徒自身が何を学んだかが分かる授業づくりを進めていきたい。

文献

1）中央教育審議会（2016）幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)(中教審第197号).
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2016/12/27/1380731_00.pdf(2017/2/19取得)

2）中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会特別支援教育部会(2016)資料5　自立活動の改善・充実の方向性(素案).
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/063/siryo/__icsFiles/afieldfile/2016/02/01/1366280_04.pdf(2017/2/19取得)

3）宮尾尚樹・一木薫・古川勝也(2016)子どもの生活年齢と自立活動の指導における中心課題―個別の指導計画の記録に着目して―. 日本特殊教育学会第54回大会発表論文集，P4-13.

4）大崎博史(2011)キャリア教育の視点による個別の教育支援計画における『本人の願い』の把握及び支援の充実を図るためのツールの開発と試行.国立特別支援教育総合研究所研究紀要，38，47-64.

5）佐藤まゆみ(2014)特別支援教育１から始める自立活動　コミュニケーション力を育てる授業づくり．明治図書.

6）涌井恵(2009)本人中心アプローチによる障害のある子どもの支援の輪作りに関する事例報告―小学生へのPATH(Planning Alternative Tomorrow with Hopes)の実施―. 教育相談年報，30，1-6.

巻末資料1　コミュニケーション段階表（一部）

No3

コミュニケーション発達段階表

中学部　3年　A

◎：達成　△：芽生え　空白：未達成

コミュニケーション指導期	発達年齢	日常的に子どもが示す状態	6/7	12/16			
V 集団遊びの中でのやりとり充実期	3:0	母親などの説得を聞き入れることができる。	◎	◎			
		他者の気持ちが自分と違うことがわかる。					
		子ども同士の遊びの場面で，相手やその集団に合わせて行動することができる。	◎	◎			
		勝ち負けや順番，簡単なルールがわかって，意識して集団で遊ぶことができる。	◎	◎			
		体験したことやテレビの内容などを，友達や大人と話すことができる。	◎	◎			
		質問するときと答えるときなどの言葉が違うことがわかる。	◎	◎			
		「貸して」「ありがとう」などが言える。	◎	◎			
		1つの物について，簡単に説明できる。「クレヨンは絵を描くもの～」など。	◎	◎			
VI 相手の気持ちへの意識獲得期	4:0	電話で簡単な対応ができる。		△			
		いろいろな道具を使って友達と遊ぶことができる。	◎	◎			
		子どもだけで遊ぶことができる。	◎	◎			
		簡単な指示や説明を聞いて，できるだけその通り行動できる。	△	△			
		指示があれば簡単な役割を遂行できる。	△	△			
		必要なときに近くの大人に助けを求めることができる。		△			
		他者の行動を解釈できる（人が～するのは～だと思っているからだ，という解釈ができる）。		△			
	5:0	ドッジボールなど敵・味方のある集団遊びに参加できる。	◎	◎			
		決まりを守って行動することができる。	△	△			
		集団の中でも用具を譲り合いながら遊ぶことができる。	△	◎			
		誰に対しても大体の受け答えができる。	◎				
		伝言を正しく伝えることができる。	△	△			
		「はい」「わかりました」「違います」などの返事ができる。	◎	◎			
		大人の話を聞き，わからないときは聞き返すことができる。					
		目の前にいる他者の気持ちを想像できる。		△			

＊佐藤まゆみ（2014）特別支援教育１から始める自立活動＿コミュニケーション力を育てる授業づくり．明治図書．p.105-108を一部改変し，使用した。

巻末資料2　指導案

平成２８年度　中学部　自立活動　人間関係形成グループ　学習指導案

日　時	平成２８年１２月１日（木）３時間目１０：３５～１１：２５	場所	中学部　３年１組教室
指導者	Ｔ１：渡邊　崇　Ｔ２：　Ｔ３：　Ｔ４：		
単元名	見えない世界を体験しよう		
単元の目標	・友達から伝えられた情報を聞いて，目隠しした状態で行動することができる。 ［自立３・(1)］ ・目隠しした友達に分かりやすく必要な情報を伝えたり，聞いたりすることができる。 ［自立６・(5)］ ・相手が必要とする情報をどのように伝えたらよいかを考えることができる。［自立６・(5)］		
指導計画 （9時間扱い）	第１次　はてなボックスをやってみよう・・・・・・・・・・１時間 第２次　歩行の補助について話し合おう・・・・・・・・・・１時間 第３次　目隠しをして一人で歩いてみよう・・・・・・・・・１時間 第４次　平坦な場所のブラインドウォークをしてみよう・・・３時間 第５次　段差のある場所のブラインドウォークをしてみよう・２時間（本時は１時間目）		
授業づくりにおいての工夫点	・話し合い活動のテーマを，目隠しした状態で行動したり，目隠しした友だちに分かりやすく伝えたりする体験をふまえた内容にすることで，体験を振り返り，生徒からの意見を引き出せるようにした。 ・学習の意欲を高めるために，本校マスコットキャラクターの「きっくん」の動画による指令を設定した。 ・小グループの活動にすることで，全員が役割を遂行することができるようにした。		

形態 時間(分)	主な学習活動・内容	指導の手立て（各Ｔの役割等）※評価は□で囲む
全 （1）	１　始めの挨拶をする。	・Ｔ１は，活動の見通しがもてるように，活動の手順を黒板に掲示する。
全 （5）	２　きっくん動画で指令を聞く。	・Ｔ１は，学習の意欲を促すために動画を用いて指令を伝える。Ｔ２～４は，指令に注目できるように，言葉かけや指差しをする。
グ （5）	３　グループで前半・後半の目隠しする人，誘導，観察の役割を分担する。	・Ａグループには，Ｔ３・Ｔ４，ＢグループにはＴ２，ＣグループにはＴ１が入り，役割分担の調整をする。 ・指令内容を確認できるように，グループに１枚の指令書を渡す。
グ （10）	４　ブラインドウォークをする。 Ａ：G，H，I，J （図書ホール）T3，T4 Ｂ：D，E，F （音楽室）　T2 Ｃ：A，B，C （ﾌﾟﾚｲﾙｰﾑ）　T1	・Ｔ１～Ｔ４は，段差の場面で先回りして，転びそうになったときに介助する。 ○友だちから伝えられた情報を聞いて，目隠しした状態で行動することができたか。（観察） ○目隠しした友だちに分かりやすく必要な情報を伝えたり聞いたりすることができたか。（観察）
グ （15）	５　段差のある場所の誘導の仕方について話し合う。	・Ｔ１～Ｔ４は，話し合いが滞ったときに，生徒に質問したり，選択肢を提示したりして，意見や理由を引き出す。 段差のある場所で相手が必要とする情報をどのように伝えたらよいかを考えることができたか。（観察・ワークシート）
全 （5）	６　グループで話し合ったことを発表する。	・Ｔ１は，各グループの意見を板書して，比較したり，良かった点を取り上げたりして，次時の活動につなげることができるようにする。
個 （5）	７　ワークシートで振り返りをする。	・Ｔ１～Ｔ４は，ワークシートの記入が滞ったときに，生徒に質問したり，選択肢を提示したりして，意見や理由を引き出す。
全 （3）	８　終わりの挨拶をする。	